

令和6年度 愛媛森林管理署の重点施策

令和6年5月
愛媛森林管理署

1 国産材の安定供給と土場渋滞対策

- 愛媛署がR6年度に予定する木材供給量は92千m³(製品販売50千m³、立木販売42千m³)。R5年度に比べ、2%増加。
- 森林管理局と需要者の協定締結による国有林材(製品・立木)の安定供給(システム販売)を推進(R5年度26千m³→R6年度26千m³)。
- 木材供給量の増加による受入れ土場の渋滞を防ぐため、山元土場でのC材販売・大型製材工場への直送、国有林材を搬入する新たな木材市場の開拓、間伐事業を請負う事業者と複数年契約の締結等に取り組む。

■ 愛媛森林管理署の国有林材の供給量

(千m³)

	R2	R3	R4	R5	R6
供給総量	45.6	59.2	48.4	55.5	92.0
製品販売	40.5	42.7	42.2	52.7	49.9
システム販売	22.1	21.2	24.1	25.8	26.1
立木販売	5.1	16.5	6.2	2.8	42.1

※R元～R4年度は実績値。立木の製品(丸太)換算率は70%

山元土場でのC材販売



小田深山国有林(内子町)

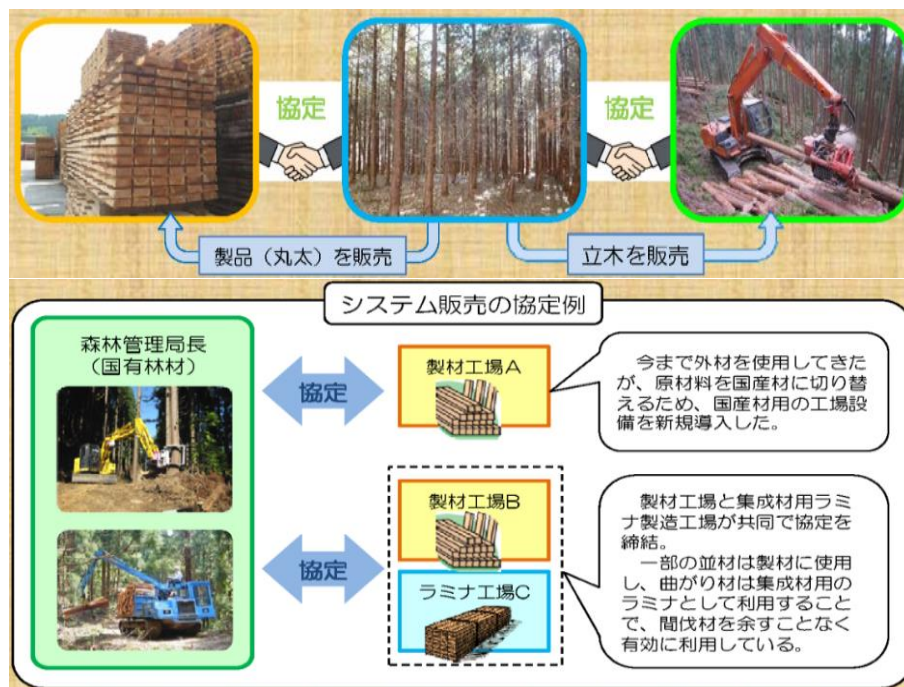
素材生産現場



黒滝山国有林(久万高原町)

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み

製材・合板工場 森林管理局(国有林材) 素材生産業者



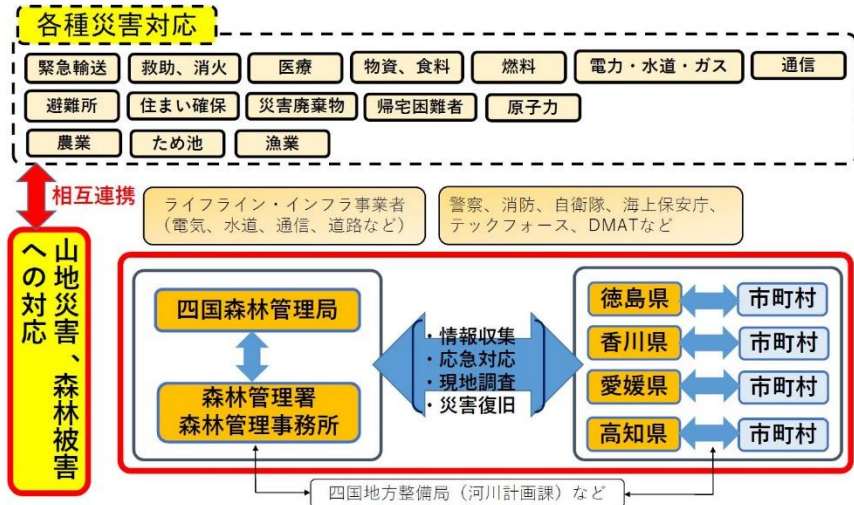
※システム販売の対象は、製品(丸太)と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。

※立木のシステム販売は、複数年(3年以内)の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

2 地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

- 近年頻発する豪雨・地震等による山地災害に対し関係機関が連携し、迅速かつ的確な初動対応を取ることが重要。
- 愛媛森林管理署は、松野町、西条市、久万高原町の3市町と災害対応措置に関する協定を締結。また、ドローンを活用した災害時情報収集訓練を実施。
- 山地防災初動時における情報共有の円滑化を目指し、災害対応について関係機関との連携方法の確認等を行う四国山地災害初動対応等強化会議や県市町、消防、気象台等が構成員となっている大規模氾濫に関する減災対策協議会への参画、河川を所管する国土交通省と連携し流域全体で水害防止を検討する流域治水の取組(肱川流域、重信流域)など、関係機関と連携し山地防災力の強化を進める。

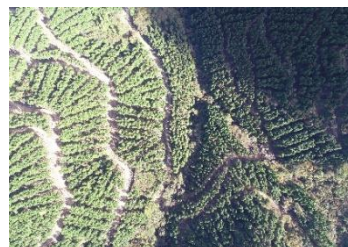
■ 四国山地災害初動対応等強化会議



山地防災力の強化に向けた治山施設の整備、間伐等の推進



篠山国有林(愛南町)



目黒山国有林(松野町)

■ 肱川流域治水協議会と重信川流域治水協議会

場所	肱川流域治水協議会	重信川流域治水協議会
設立目的	近年頻発している激甚な水害や気候変動による今後の降雨量の増大と水害の激甚化・頻発化に備え、集水域から氾濫域にわたる流域全体のあらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するために設立。	
設立年	令和2年7月	令和2年8月
構成員	大洲市、西予市、内子町、伊予市、砥部市、愛媛県、国土交通省(河川事務所等)、農政局、愛媛森林管理署等	松山市、伊予市、東温市、松前町、砥部町、愛媛県、国土交通省(河川事務所等)、農政局、愛媛森林管理署等
事務局	国土交通省 (大洲河川国道事務所)	国土交通省 (松山河川国道事務所)
開催頻度	2回程度/年	2回程度/年

3 地域の森林・林業を担う人材育成

- 四国森林管理局と愛媛大学は、森林・林業の再生を担う人材育成を図るため、平成26年に連携協定を締結。その一環として、愛媛森林管理署は、愛媛大学農学部をインターンシップ生として短期間受け入れ、伐採・造林等の事業実習体験を行う。更にその一環として、愛媛森林管理署は、天然力を活用した低コスト林業に取り組むため、伐採跡地の天然更新調査を愛媛大学と共同で行う。こうした取組みを通じ、得られた成果を共有するとともに、愛媛森林管理署の人材育成を図る。
- 南予森林管理推進センター(構成員:宇和島市、松野町、鬼北町、南予森林組合)は、南予地域の林業担い手の育成を図るため、「南予森林アカデミー」を令和4年4月に鬼北町に設立。愛媛森林管理署は、実習フィールドとして国有林を利用してもらうなど南予森林アカデミーと連携した林業の担い手育成に取り組む。

■ 四国森林管理局と愛媛大学との連携協定



■ 愛媛大学と愛媛森林管理署による天然更新調査



ササ丈以上に天然更新しているクリ(写真左)とコシアブラ(写真右)。

■ 愛媛大生インターンシップ受入れ



森林3次元計測システムOWLによる森林蓄積の把握実習



治山工事の検査実習

■ 南予森林アカデミーへの協力



南予森林アカデミー開講式(写真上)、アカデミーの校舎(写真下)

4 森林共同施業団地の着実な推進、新たな森林共同施業団地の設定

- 愛媛森林管理署と鬼北町は、林道や作業道の路網を相互に利用し、鬼北町奈良地区に位置する鬼北町有林と国有林の森林整備を一体的に行うため、令和6年3月、「鬼北町奈良地区森林共同施業団地」の設定を内容とする森林整備推進協定を締結。愛媛森林管理署は、協定に盛り込まれた施業計画に沿って、森林施業団地の森林整備を着実に推進していく。
- また、愛媛森林管理署は、南予地域において新たな森林共同施業団地の設定を検討しており、関係者と協議を重ね、合意形成を図っていく。

■ 鬼北町との森林整備推進協定の締結

■ 鬼北町との森林整備推進協定の概要

■ 新たな森林共同施業団地の設定検討



令和6年3月に行われた愛媛森林管理署と鬼北町との森林整備推進協定締結の様子。

協定名	鬼北町奈良地区森林整備推進協定
協定対象 森林面積	204ha (鬼北町有林:58ha、国有林:146ha)
協定 締結者	鬼北町長、 鬼北町近永地区町有林管理組合長、 愛媛森林管理署長
協定締結の メリット	鬼北町は、愛媛森林管理署が開設・修繕した作業道や国有林林道を活用して、鬼北町有林の森林整備を行い、木材搬出ができる。愛媛森林管理署は、鬼北町が修繕した林道を活用して、立木販売箇所の木材搬出ができる。



新たな森林共同施業団地の設定に向けた現地調査の様子。

5 人工林主伐後、天然更新による森林づくり現地検討会の開催

- 効率的な林業のためには、林道から遠い、傾斜が急、標高が高い等の条件不利地の人工林は、主伐後、人工林として維持せず、天然更新によって元来の天然林に戻していくことが望ましい。しかしながら、愛媛署が管理する国有林の9割以上が保安林であり、指定施業要件によって再び針葉樹(又は広葉樹)を植栽しなければならない。
- 愛媛署には、100m幅で小面積皆伐を行い、ヒノキを植栽したものの、ノウサギ被害により半分が枯死した造林地がある。造林地の周囲は広葉樹林に隣接しており、造林地内ではクリ等の広葉樹が良好な天然更新をしている状態。
- 愛媛森林管理署は、愛媛大学農学部生物環境学科の協力得て、令和5年9月、天然更新調査を実施しており、高木性広葉樹がha当たり7,000本以上天然更新していることが明らかとなった。
- 天然更新調査結果や周囲の広葉樹林立地状況を踏まえ、人工林主伐後の天然更新による森林づくりについて現地検討会を開催し、将来の指定施業要件の追加(現在の「植栽」に加えて、「天然更新」を追加)について検討する。

■位置図



■調査対象地



写真左の伐区: 横幅105m×奥行130m、平均傾斜25度
写真右の伐区: 横幅110m×奥行180m、平均傾斜30度

■天然更新調査



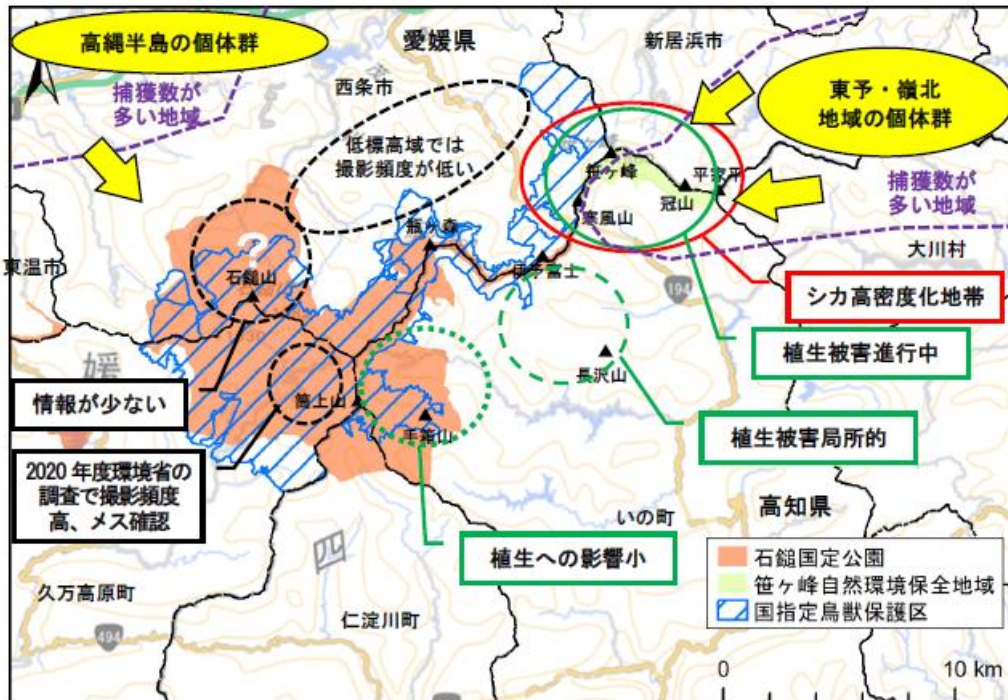
愛媛大学と共同で実施した天然更新調査の様子

6 地域との連携によるニホンジカ被害対策の推進

- 西日本最高峰で山岳信仰の対象である石鎚山(標高1,982m)、瓶ヶ森、寒風山、笹ヶ峰などからなる石鎚山系は、石鎚国定公園、石鎚山系森林生態系保護地域、緑の回廊などに指定され、原生的な天然林を主体とする四国の代表的な森林生態系である。
- 近年、石鎚山系では、周辺地域からシカが侵入し、シカによる食害被害や下層植生の衰退が確認されている。こうした状況を改善するため、愛媛森林管理署は、愛媛県や西条市、久万高原町、愛媛大学、森林組合、環境NPO等で構成する愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会等と連携しつつ、委託事業によりシカ捕獲を実施する。
- また、シカ被害が拡大しつつある南予地域においては、委託事業や民間企業との協定に基づく捕獲により、シカ被害対策を行う。

■ 石鎚山系におけるシカの被害状況

(「石鎚山系における生物多様性保全計画」(2022.4月、高知県)より引用)



■ 愛媛森林管理署の捕獲実績

	R2	R3	R4	R5
東予	1	2	2	—
中予	—	2	2	3
南予	14	20	26	23

小型囲いワナによる捕獲



八幡山国有林(宇和島市)

7 森林環境教育を通じた地域への貢献

- 久万高原町は、イベントスローガンとして、「目指せ！ 林業日本一のまち」を掲げ、木工品の展示販売、野菜等の地域特産品の販売、木のおもちゃで遊ぶ体験コーナーの開設、森林の役割を説明する展示等を実施。
- 内子町は、幼い頃の林業体験が将来の林業就業に結び付くと考え、林業学習型アウトドアイベント(名称:ワンツーツリーフォレスト)を毎年開催。イベントでは、主として小中学生をターゲットにした高性能林業機械の操作体験や立木伐倒・造材・搬出の実演、丸太切り体験等を実施。
- 愛媛森林管理署は、これらイベントを国有林や森林行政に対する理解促進の機会と捉え、国有林のフィールドを活用した森林自然探検ツアーの開催や木工品づくりを実施してきた。今後もこれらイベントに参加し、森林環境教育を通じた地域への貢献に努めていく予定。

■久万林業まつり(久万高原町)



愛媛署が開催した木工品づくりの様子



■ワン・ツリー・フォレスト(内子町)



森林の役割を説明する職員



森林自然探検ツアーで説明する職員